

令和4年度(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

CSW 活動報告書



C こまったときの S そうだんは W わたしたちへ

社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会



目 次

	はじめに	1
	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは	2
	CSW 活動報告	
Ι	相談集計表	4
Π	地区別相談支援回数(個別支援·地域支援)	7
Ш	CSW スナップ集	8
IV	地域支援活動	
	(1)コロナ禍における CSW の取り組み	11
	(3)SNS を使った情報配信	12
	(5)団体立上げ支援	13
V	事例報告	
	(事例 1)個別支援	14
	(事例 2)地域支援	15
=	さいごに	16
	ホームページ等一覧	17

■はじめに

令和 4 年度においても長期化した新型コロナウイルス感染症により、経済や雇用、人々の生活に大きな影響が生じることとなりました。これにより特定の業種を中心に雇用が減少し、雇用が継続されている方も休業等により収入減に見舞われていました。これらの世帯への支援を行うため、国の政策として特別定額給付金や子育て世帯への臨時特別給付金等の支給が行われました。

こうした中、所沢社協では前年度に引き続き、生活福祉資金の特例貸付や住居確保給付金の受付、生活困窮支援金の給付決定事務等を行い、生活に困窮する世帯への支援を行いました。

一方、地域福祉活動団体に目を向けると、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域のこども食堂や高齢者のサロン等が相次いで休止となり、従来その場で行われていた交流の機会が失われることとなりました。そこで、寄付金や赤い羽根共同募金を財源とする助成金により、こども食堂等の居場所を新たに立ち上げる団体へ助成を行うとともに「子育て応援フードパントリー」を実施し、困難を抱えるひとり親世帯等の相談につなげました。

所沢社協では、平成 28 年から CSW を市内全地区に配置し、地域に出向き個別の相談に寄り添い困りごとを把握し、専門機関や地域のボランティア団体等につなげています。個々の困りごとの支援から把握した課題を地域の課題として捉え、民生・児童委員、地域福祉サポーター、地域住民等と連携・協働し、居場所づくりや支え合いの仕組みづくりの創出に努めています。

本報告書は、相談実績や支援の事例を用いながら、令和 4 年度の CSW 活動をまとめたものです。本報告書が CSW の活動について広く市民の皆様の理解を広げ、支え合いのまちづくりを地域住民や関係機関・団体の皆様とともに一層進めるきっかけとなれば幸いです。

私たちが所沢社協の CSW です!



■コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは

市内11行政区ごとに担当のCSWを配置し、地域に出向き複合的な生活課題を抱えた個人や家族に対して必要なサービスや専門機関へのつなぎなど包括的な相談支援を行います。また、個々の困りごとを地域の課題として捉え、地域住民や多様な関係機関等と連携を図り、こども食堂の立ち上げや多世代交流の場づくりを行いながら、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組みます。

CSW の主な役割

キャッチフレーズ

<u>©こまったときの</u> <u>⑤そうだんは</u> **⑩わたしたちへ**

●地域に出向き困りごと発見・把握

CSW が地域に出向き、ちょっとした困りごとやどこに相談したら良いかわからないといった相談に応じます。また地域で開催される会議や集まりに参加し、地域の課題やニーズの把握に努めています。

【困りごとの発見・把握の場の例】

- ・まちづくり協議会・地区社協との連携・協働
- ・地域ケア会議への参加
- ・住民懇談会など福祉情報交換会の開催
- ・各地区の身近な相談窓口の設置 等



●関係機関や地域の居場所と連携・つなぐ支援

一人ひとりの困りごとやニーズに応じて、福祉の相談窓口や地域包括支援センター等の 専門機関や地域の居場所につなぐ支援をします。

【CSW がつなぐ関係機関や地域の居場所の例】

- ・相談窓口に関すること(行政の専門窓口、地域包括支援センター等)
- ・こどもの居場所に関すること(こども食堂、学習支援、フードパントリー等)
- ・交流居場所に関すること(サロン活動、茶話会、百歳体操、会食、農園等)
- ・助け合い活動に関すること(家事援助、庭木の手入れ、話し相手等)



●個別の困りごとを地域で解決する仕組み作り

個別の困り事から見えてくる、地域の課題やニーズを共有し、解決に向けた話し合いや 取り組みを進めていけるよう地域住民の皆さんと共に活動していきます。

【生活上の様々な困りごとの例】

- ・長い間自宅に引きこもっていて、一歩を踏み出せない
- ・たくさんの問題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- ・生活に困窮し精神的にも疲弊している
- ・介護(若い世代による介護負担含む)や育児によるストレス、虐待等





令和 5 年度各地区 CSW 配置図 所沢社協だよりNo.107 より

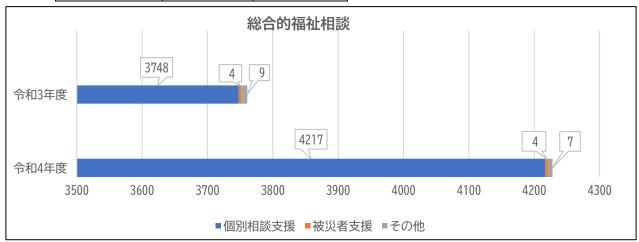
■CSW 活動報告

I 相談集計表

この表は、令和 4 年度(令和 4 年 4 月 1 日~令和 5 年 3 月 31 日)に、CSW が対応 した相談件数、相談対象者及び相談者種別、相談内容等を集計したものです。

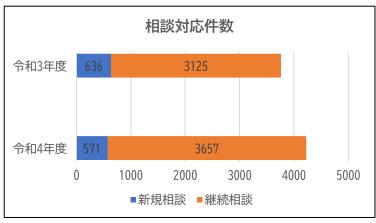
【 総合的福祉相談(個別相談支援、被災者支援、その他) 】(単位:件)

	令和 4 年度	令和3年度
個別相談支援	4, 217	3, 748
被災者支援	4	4
その他	7	9
合計(延べ件数)	4, 228	3, 761



【 相談対応件数 】(単位:件)

	令和 4 年度	令和3年度
新規相談	571	636
継続相談	3, 657	3, 125
合計(延べ件数)	4, 228	3, 761

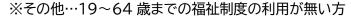


令和4年度において、令和3年度から相談件数が 467 件増加しました。令和 4 年度はアセスメントシートの見直しを実施し、丁寧な対応を行いました。令和5年度も引き続き丁寧な対応や適切なアセスメントに繋げて行きます。

CSW が受ける相談は多岐にわたるため、相談内容については 6 ページをご参照ください。

【 対象者種別 】(単位:件)

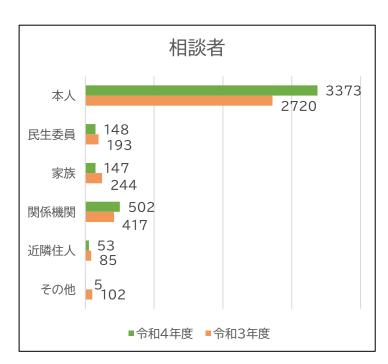
	令和 4 年度		令和 3 年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
高齢者	1,330	31.4%	1, 156	30.8%
障がい者	531	12.6%	548	14.6%
児童	452	10.7%	299	8.0%
生活保護世帯	386	9.1%	174	4.6%
団体等	49	1.2%	6	0.2%
その他※	1,480	35.0%	1,578	41.8%
合計	4, 228	100.0%	3, 761	100.0%





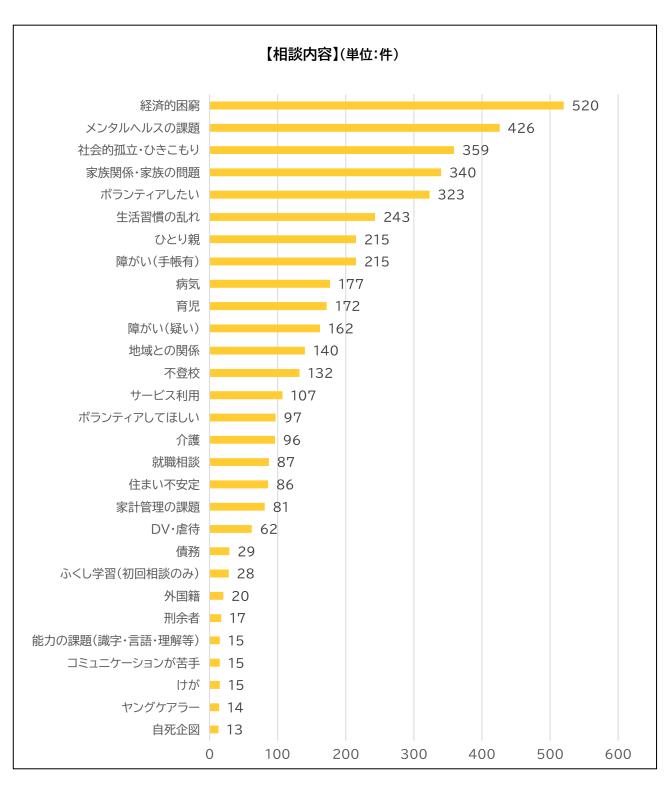
【 相談者種別 】(単位:件)

	令和 4 年度		令和 3 年度	
	延べ件数	構成比	延べ件数	構成比
本人	3, 373	79.7%	2,720	72.2%
民生委員	148	3.5%	193	5.1%
家族	147	3.5%	244	6.6%
関係機関	502	11.9%	417	11.1%
近隣住人	53	1.3%	85	2.3%
その他	5	0.1%	102	2.7%
合計	4, 228	100.0%	3, 761	100.0%



対象者種別では、地域の団体と連携してこどもの居場所の立ち上げ等を行い、相談をキャッチする場が増えた事により、児童に関する相談が令和3年度に比べ153件増加しています。また、その他とは、他の種別に該当しない19歳~64歳までの相談者を示します。CSWならではの、どこにも繋がっていない方からの相談が最多になっています。

相談者を見ると、コロナ禍が終息に向かい、外出の機会も増えたことで、本人からの相談が令和 3 年度に比べ最も増加しています。



※合計(延べ件数)4,228 件 少数項目、類似した一部の項目は割愛

この数年間のコロナ禍の影響によって、日常生活に支障をきたす「経済的困窮」「メンタルヘルスの課題」「社会的孤立・ひきこもり」が上位になっています。

また、「ボランティアしたい」と考える方が増加しています。

Ⅱ 地区別相談支援回数(個別相談支援・地域相談支援)

CSW による個別相談支援や地域相談支援を地区ごとに集計したものです。なお、個別相談支援とは、複合的かつ多様な相談に対応し、関係機関や団体等と連携して支援したものです。地域相談支援とは、地域の課題を地域の中で解決できるように仕組みづくりを支援したものです。

【個人相談支援順位】

	1位	2位	3位
所沢	今後の対応についての相談	ひとり親	ごみ屋敷
松井	今後の対応についての相談	ボランティア活動をしたい	安否確認
柳瀬	家族関係	病気	今後の対応についての相談
富岡	関係者との情報共有	安否確認	ボランティア活動をしたい
新所沢	今後の対応についての相談	関係者との情報共有	どこに相談したらいいか
新所沢東	今後の対応についての相談	関係者との情報共有	ボランティア活動をしたい
三ヶ島	今後の対応についての相談	どこに相談したらいいか	ボランティア活動をしたい
小手指	今後の対応についての相談	経済困難	ボランティア活動をしたい
山口	経済困難	今後の対応についての相談	引きこもり
吾妻	今後の対応についての相談	関係者との情報共有	どこに相談したらいいか
並木	今後の対応についての相談	ボランティア活動をしたい	どこに相談したらいいか
市内全域	ボランティア活動をしたい	今後の対応についての相談	ボランティア要請

【地域相談支援順位】

	1位	2位	3位
所沢	地域の会議	子ども支援(こども食堂・学習支援)	地域の居場所(サロン・体操等)
松井	地域の会議	ふくし掲示板管理	ふくし学習(学校関係)
柳瀬	子ども支援(こども食堂・学習支援)	地域の居場所(サロン・体操等)	相談会の開催
富岡	地域の居場所(サロン・体操等)	ふくし学習(学校関係)	相談会の開催
新所沢	地域の会議	地域の居場所(サロン・体操等)	相談会の開催
新所沢東	社協が運営する拠点活動	地域の居場所(サロン・体操等)	子ども支援(こども食堂・学習支援)
三ヶ島	子ども支援(こども食堂・学習支援)	ふくし学習(学校関係)	地域福祉サポーターの取り組み
小手指	地域の居場所(サロン・体操等)	子ども支援(こども食堂・学習支援)	地域の会議
山口	子ども支援(こども食堂・学習支援)	地域の会議	相談会の開催
吾妻	地域福祉サポーターの取り組み	地域の会議	子ども支援(こども食堂・学習支援)
並木	相談会の開催	地域の居場所(サロン・体操等)	地域の会議
市内全域	地域の会議	担い手・ボランティア活動の相談支援	人材育成·講座·学習等(学校関係以外)

個人相談支援は、対象者の「今後の対応についての相談」が各地区で最も上位を占める結果となりました。「今後の対応についての相談」とは「本人と今後の支援について協議した」、「関係機関と本人の今後の支援について協議した」等を指します。

地域相談支援を見ると、こども食堂等の地域の居場所づくりや地域の会議を通じたネットワークの構築など多岐にわたる活動をしています。

Ⅲ CSW スナップ集



CSW 会議



地域に出向いた相談会

ポイント 1

~個別の課題を地域の課題へ~

各地区で相談会等を実施、地域の会議等に出席し、個別の相談に対応しています。そこで得た、個別課題を地域の課題として捉え、新たな地域資源創出につなげます。

週1回 CSW 会議を行うことで、所沢市 全体としての課題把握に努めています。



こどもの調理体験



所沢チャリティコンサートへの協力



サロン活動への参加(カラオケ会)



ポイント 2

~地域住民、団体等との関係形成~

地域のサロンや会議等に参加し、 地域住民と顔の見える関係づくりを 心がけています。他にも、出前講座 や事業説明会等で少しでも多くの方 に CSW のことを知ってもらえるよ う尽力しています。

地域住民からの声が何よりも大切 です。



地域福祉サポーター養成講座



認知症サポーター養成講座

ポイント3

~新たな担い手を増やす~

地域福祉サポーター養成講座、認 知症サポーター養成講座、夏のボラ ンティア体験等、新たな担い手の養 成を行っています。



地域の方と協働したふくし学習



社協の拠点・みんなの居場所「ぴーす」



夏のボランティア体験スマホ教室

ポイント4

~地域につなぐ~

CSW は地域福祉サポーターや地域住民が活動に参加するきっかけづくり、つなぎ役となっています。 ふくし学習や地域福祉の推進等も地域住民と一緒に行っています。

個別支援では、困りごとのニーズ に応じて、専門機関や地域の居場 所につなぐ支援も行っています。



ポイント 5

~CSW の多様な活動~

地域福祉みらいフォーラムやコミュニティソーシャルワークラボの場で CSW の活動報告を行いました。

その他、市民フェスティバルや災害ボランティア等地域での多様な取り組みに CSW は関わっています。



地域福祉みらいフォーラム





市民フェスティバルでの福祉コーナー



コミュニティソーシャルワークラボ



こどもの居場所(西武ライオンズ選手と交流)



災害ボランティアセンター訓練



赤い羽根街頭募金

IV 地域支援活動

(1)コロナ禍における CSW の取り組み

①学級閉鎖等に伴う給食口スの取り組み

所沢市保健給食課と連携し、新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖によって、使われなかった冷凍食品を令和4年12月12日から21日の間に計2回、学校からこども食堂等へ提供する調整を行いました。



②自宅療養者に対する食支援への協力

新型コロナウイルス感染症による自宅療養者に対し、県が行っていた配食サービスは、届くまでに日数を要していました。そこで、フードパントリー事業に使用するレトルト食品等を所沢市危機管理室を通じて、希望する自宅療養者に令和3年9月17日から令和4年7月20日までの間、全11回(¥831,440)提供しました。これにより自宅療養者の食支援に寄与しました。

(2) 食支援を入口としたひとり親家庭への支援

8月・12月・3月にコロナ禍における物価高騰により影響を受けているひとり親家庭を対象に「子育て応援フードパントリー」を実施し、全3回で延べ111世帯の方に支援しました。

この事業は、原則ひとり親家庭に対して食支援を入口に CSW がこどもの居場所や学習 支援、ひとり親の就労支援等、一人ひとりの支援ニーズに合った情報を提供し、必要に応じて相談窓口に繋げるとともに多様な地域の関係者と協働する場としての役割と機能を 発揮しました。

食品については「愛の福祉基金」の活用と合わせて本会からの呼びかけに賛同いただい た延べ11の企業と 16 の福祉団体及び農家の方々からの寄付品を提供しました。

開催にあたっては地域福祉サポーター協力のもと、食品の配布準備から会場に来たこ どもたちが楽しめるような取組みを行いました。

参加者からは「こういった応援は助かります」「皆様が優しくてとても心温まりました」 「いろいろ相談に乗っていただき、ありがとうございました」といった声が寄せられました。





(3)SNS を使った情報配信

地域の中でつながりを絶やさずに暮らしていく為に、SNSや YouTube を活用した情報配信を行っています。YouTube では、総再生回数1万6千回を超え多くの方へ視覚情報を届ける事が出来ています。

令和4年度では、CSW 地区担当者の紹介動画を作成し、それぞれの地区での活動について発信し、CSW の周知に努めました。また、10 月には「赤い羽根共同募金」をテーマにした動画による啓発活動を行いました。実際に所沢市で共同募金がどのように活用されているのかを分かりやすく紹介し、令和4年度より新しく始まった「共同募金ガチャ」についても紹介しています。ガチャの中には、ひきこもり支援「あったかサポート りーち!」と連携して制作した缶バッチが入っています。共同募金について多くの方に楽しく知って頂く機会となりました。





(4)スマホ教室・スマホサポーター養成講座の実施

令和3年度に引続き、各地域で「高齢者向けスマホ教室」が開催されました。開催していく中で、「講師の声が良く聞こえない」「指のタッチ方法がわからない」等、操作に戸惑い講座の理解が進まない参加者が複数名いるという課題に直面しました。

そこで、参加者のそばに寄り添い、少しだけお手伝いをするボランティアの必要性を感じ、令和4年12月、令和5年1月に CSW が講師になり、地域福祉サポーターやシニアアカデミー受講者を対象に「スマホサポーター養成講座」を行い、計31名が参加しました。

講座修了後は、スマホ教室に出向き、内容を理解できるよう参加者に寄り添った支援を 行い、高齢者のデジタルデバイド(情報格差)解消の一端を担うことができました。





(5)団体立上げ支援

①松井フードパントリー

松井フードパントリーは、こどもの貧困が問題となっている事から、民生・児童委員で何かできないかという思いと、所沢社協も各地区に拡げたいという双方の思いから立ち上

がりました。立上げ前は、既存のフードパントリーを見学し、 支援者や食料品の確保等の情報収集に努め、令和4年度は ひとり親世帯を対象に2回実施しました。毎回、民生・児童委 員が生活状況を聞き取る等、利用者の方に寄り添いながら 活動しています。また、農家や企業からの協力も得られ、地 域の中で支え合いの輪が広がっています。



②とこパンあづま

吾妻地区で、地域のために何か取り組めないかという地域福祉サポーターの思いから、 令和4年11月よりフードパントリー「とこぱんあづま」が立ち上がりました。地域福祉サポ

ーターが中心に、民生・児童委員や地域住民と協力しながら 運営されています。CSW は立上げの相談や助成金情報、活 動場所の調整等、団体が活動していける様にサポートを行い ました。回を重ねる毎に、利用者との距離も近くなっていま す。継続して活動していける様に、CSW としても支援を行っ ていきます。



③しんとこスクエア

地域住民の「こどもたちの居場所をつくれないか」といった想いから、令和 4 年 10 月から、こどもの居場所を立ち上げる為、CSW も参加して活動を始めました。地域住民と一緒に話し合い、CSW から見た地域課題を伝えたり、関係機関と連携して地域で課題のある世帯を居場所に繋げたりしました。

また、助成金やボランティア保険についての情報提供をする等、団体の側面的なサポートも行いました。現在、毎週月曜日に、こどもの居場所を開所しています。

(6)詐欺被害防止人形「あんしんみーちゃん」の配布

所沢市防犯協力会からの依頼によって、詐欺被害防止のための「あんしんみーちゃん」 人形 696 体を提供して頂き、各団体を通じて必要な方々に配布しました。

「あんしんみーちゃん」とは、振込詐欺対策用のおしゃべり人形で、固定電話機の着信音

に反応し、女の子の声で、「電話でお金の話をしてきたら、きっと詐欺だよ。」等の 9 種類の音声メッセージで呼びかけ、振り込め詐欺の注意喚起をします。 「あんしんみーちゃん」を設置したことにより、高齢者世帯の方々を特殊詐欺から守ってくれることを期待しています。



V 事例報告

(事例1) 個別支援

閉じこもりがちな本人を地域と共に支えられるように介入したケース

相談経緯

教育センターの「スクールソーシャルワーカー」から、支援で関わる児童(A さん)の世帯 が経済的に困窮しているとの相談を受けました。

不登校生徒へのサポート校に通う高等学校2年生 A さんの世帯はひとり親世帯で、2人の弟がおり、母親は夜間に仕事をしていますが、金銭面で苦しい状況でした。

CSW の関わり

課題を整理し多職種で連携をするため、まずは家庭の経済的困窮について家計改善や 就労などの相談支援を行う「あったかサポートセンター」につなぎました。

A さんと学校のことや、今後の意向等の本音を聞くため面談を重ねました。母親が不在になることが多いため、A さんが登校しぶりのある兄弟の世話や、家族の分の食事を作る等家事の一部を担い、心身に負担を抱えていることが分かりました。

A さん自身も高校入学からほとんど学校に通うことができておらず、卒業するには出席 単位取得と課題の提出が必要な状況でしたが、「高校に進学したからには卒業したい」と いう強い思いがあることも聞き取ることができました。

A さんの高校卒業という思いを受けて、まずは学習支援を行う大学生等、年の近い支援者と交流しながら、地域の学習支援を利用できるように学習環境の調整を行いました。

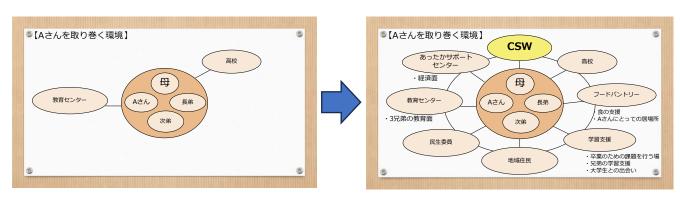
また、フードパントリーの利用につなげ、食の支援と併せていつでも家庭や学校等の生活に関する悩みを相談できるよう、見守り体制を作りました。

今後の展開

地域住民や関係機関と連携をしたことで、本人が親以外の大人との関わりを通じて、将来のことについても考えられるようになりました。CSWが関わることで、世帯全体を温かく緩やかに見守る、身近な地域での見守り体制を構築することができました。

今後も信頼関係を築きながら、卒業を目標にして、A さんの関心ごとから将来の進む方向などを見つけていけるよう、一緒に考え支えていきます。

またAさん兄弟や母親へのアプローチを含め、世帯全体に対しても包括的に支援してまいります。



CSW 介入前の A さんを取り巻く環境

CSW 介入後の A さんを取り巻く環境

(事例2) 地域支援

「みんなの居場所ぴーす」を活用した学習支援団体の立ち上げ支援

相談経緯

「所沢市ファミリー・サポート・センター」の援助会員から、活動を通じて、ひとり親家庭や不登校児童など、様々な子育て世代における課題を感じたことから、何か活動出来ないかという相談を受けました。CSW が話し合いの場を設け、最終的に「学習要素も取り入れたこどもの交流の場を作ろう」といった意見にまとまりました。

CSW の関わり

立ち上げの打ち合わせには、CSW が地域の関係者に声掛けを行い、地区の民生・児童委員、地域福祉サポーター、地区内でこどもの居場所を行っているボランティアの方、様々な地域の関係者に参加してもらいました。また、助成金やボランティア保険等の情報提供や社協の拠点「みんなの居場所ぴーす」の活用も提案しました。そして、その後も話し合いを重ねていき、令和4年4月には、こどもたちの学習・交流の場が立ち上がりました。

打ち合わせの際「シニアスタッフが多く、今の世代に合う勉強を教えることはできるだろうか」という課題が挙がりました。そこで何か活動がしたいという大学生に CSW から声を掛け、活動に参加してもらうことで課題解決を行いました。また大学生からシニアまでの様々な世代のスタッフがいることで、遊びに来るこどもにとっても安心して学習・交流ができる場となっています。

今後の展開

この活動は、住民の声から始まった取り組みであり、少しずつ協力者の輪が広がっていきました。CSW が地域で活動する中で感じている地域のニーズと地域住民の想いを形にし、活動団体の立ち上げにつなげることができました。これからも団体とゆるやかにつながりつつ、活動のサポートを行っていきます。

※「ファミリー・サポート・センター」とは、安心して子育てができる地域づくりを進めるために、子育ての援助を受けたい利用会員と、援助をしたい援助会員をコーディネートする機関になります。



■さいごに

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症も徐々に落ち着きを見せ、経済的に影響を受けた方々を補填する様々な助成金や貸付制度が終了し、アフターコロナの時代へと移行する期間でありました。

令和4年度の相談状況を令和 3 年度と対比して考察してみると、個別相談の件数が 4,217 件であり、令和 3 年度の 3,748 件より 469 件増加しました。また、経済的困窮 の相談内容が、144 件増えており、本人自ら相談した方が 653 件増加しています。この ことは貸付制度の駆け込み申請等が多かったことを裏付けていると思われます。なお、ひ とり親の相談が 107 件から 215 件と倍増しているのは、所沢社協が行った「子育て応援 フードパントリー事業」が相談に結びついた背景があると考えられます。

新型コロナウイルスが残した様々な課題に対応していくためには、コロナ禍を乗り越えた現在における新たな「つながり・支え合い」を創出し、人々がつながりをもちながら安心して生活を送ることのできる地域共生社会を実現することが求められます。 そのためにはまず、世代や属性、「支える側」、「支えられる側」を超えて、包摂的(インクルーシブ)な「つながり・支え合い」を創出することが重要です。誰にでも起き得るであろう生きづらさや、多様化し複雑化する生活課題に対応するためには、支援が必要な方の状況や希望に応じて、支援方法や支援経路も多様であることが求められます。

このため、多様な新しい社会資源を開拓し、全ての人に「つながり・支え合い」を創出することが重要であり、そのための取組みの方向性として、①属性を問わない相談支援やアウトリーチを始めとする「包括的な支援体制」の構築、②暮らしの基盤である「住まい」から始まる支援、③ICT による積極的な情報発信や様々な人が交差する「居場所」づくりの推進が考えられます。

様々な観点から誰一人取り残さない地域づくりを目指して「地域共生社会」の実現に寄与してまいります。



■ホームページ等一覧

★CSW 報告書、CSW について

http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/csw.html



★所沢社協 YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCGobqf1YOYMy_wkiYYnUXxA



★所沢社協 LINE・メール配信

http://www.toko-shakyo.or.jp/sien/mail.html







メール

★地域福祉サポーター

http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/supporter-area.html



★認知症サポーター養成講座

http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/supporter-course.html



★車いすステーション

http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/wheelchair.html



★こども支援事業(居場所一覧、助成事業等)

http://www.toko-shakyo.or.jp/katsudou/kodomo.html



社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会

住 所:所沢市泉町 1861-1

所沢市こどもと福祉の未来館3階

電 話:04-2925-0041

FAX:04-2925-3419

メール:0041m@toko-shakyo.or.jp

ホームページ:http://www.toko-shakyo.or.jp/







*CSW報告書は共同募金の配分金を活用しています。